

広報

# あまのい

(天の医)

No.4

2026 (春号)



浄専寺のしだれ桜 (五ヶ瀬町)

春の訪れを感じさせる桜が今年も西臼杵の随所に咲き誇りました。五ヶ瀬町浄専寺のしだれ桜は樹齢約300年とも言われ、その歴史を感じさせる佇まいは圧巻です。



西臼杵医療センター  
NISHIUSUKI MEDICAL CENTER

# センター長あいさつ

## ～「心理的安全性」と「アサーティブ・コミュニケーション」～



令和8年度のスタートにあたりご挨拶申し上げます。センター長（西臼杵広域行政事務組合 病院事業管理者）の「寺尾公成」でございます。西臼杵医療センターの広報誌「広報 あまのい（天の医）」No.4（2026年・春号）をお届けいたします。発刊を待っておられた方にも、たまたま目に触れられた方にも、ご一読頂ければ幸いです。

さて、「上から目線で、・・・」「下からの突き上げで、・・・」などといった一方的で胡散臭い場面に出くわすと、今風に言えば〇〇ハラメントということになるのでしょうか。いかなる事情があれ、ハラメントが蔓延した状況では決して建設的な社会は構築されません。そこで、お互いがリスペクトし合い、安心して自己表現や発言ができる環境を形成できれば、良質な人間関係が構築され、組織としてのパフォーマンスや創造性は高まります。これがまさしく、1999年に、ハーバード大学のエイミー・エドモンドソン教授が提唱した概念で「心理的安全性」

であります。心理的安全性が高い組織では、各人が能力を発揮できる環境が生まれ、組織への愛着心が深まり、離職率が低下し、優秀な人材の流出を防ぎ、組織全体のパフォーマンスが向上するとされています。そのためには、リーダーの存在すなわち「引っ張る力」のみならず「支える力」をバランスよく有する人材が重要になってきます。すなわち、一人一人が責任を持ちながらフランクに語り合えるコミュニケーションの場を提供することこそがリーダーの支える力ではないでしょうか。まさしく「アサーティブ・コミュニケーション」の場を形成することに他なりません。アサーティブ・コミュニケーションとは、相手と自分の両方を尊重し、対等に意見を述べ合うコミュニケーションスキルとされ、良好な人間関係を築き、職場のストレス軽減に繋がり、活発な意見交換により、業務効率や生産性が向上します。

当センター運営管理局では、新しいメンバーを加えた新体制下で、「心理的安全性」を重視した「アサーティブ・コミュニケーション」を積極的に取り入れていくことにより、風通しの良い環境のもと、さらなる「医療の進化」を目指していく所存であります。

今後とも、西臼杵医療センターの広報誌「広報 あまのい（天の医）」へのご助言、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

“医療とは、理路整然とした科学と

心溢れる情熱の融合である。”



令和8年4月吉日  
西臼杵医療センター  
センター長 寺尾公成

# 令和8年度新体制のご紹介

## 運営管理局について

西臼杵医療センターは3年目を迎え、この春から運営管理局の体制を新しく整えました。高千穂町・日之影町・五ヶ瀬町・宮崎県から出向の行政職員及び会計年度任用職員、そして新たに高千穂町国保病院の副看護部長も兼任として配置し、3つの国保病院を繋ぐ看護部門の強化にも取り組める体制となりました。

一方で、医療人材の確保や経営の安定化、適正な入院・外来体制の見直しなど、私たちが向き合う課題は少なくありません。だからこそ今年度は、こうした課題に丁寧に取り組みながら、地域医療を持続していくための“さらなる進化”を目指す一年にしたいと考えています。医療と行政の連携を強化し、住民の皆さまが「ここなら安心できる」と感じられる医療を守り続けるために、私たちはこれからも歩みを進めてまいります。



## 運営管理局「看護対策担当」よりひとこと

本年度より、高千穂町国保病院副看護部長ならびに西臼杵医療センター運営管理局の看護対策担当を拝命いたしました「甲斐真樹」です。昨今の医療を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、その中でも質の高い看護を維持し続けるためには、現場の努力だけでなく、組織としての戦略的な運営が不可欠です。

私の役割は、「経営の視点」と「看護の現場」をしっかりと繋ぐことだと考えています。高千穂・日之影・五ヶ瀬、各国保病院の最も大きな組織である看護部の連携を強化し、課題解決への道筋を共に考えていきたいと思っております。

また、毎朝、高千穂国保病院で受診受付のお手伝いもさせていただいております。お気軽にお声掛けください。患者様にとっても、そして働くスタッフにとっても西臼杵の3つの国保病院がより良くなるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

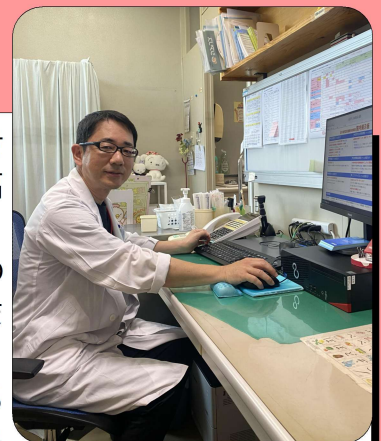
## 高千穂町国保病院の小児診療体制について

このたびご縁をいただき、令和8年4月より高千穂町国保病院小児科に勤務させていただくことになりました、「興柁雅彦」と申します。平成6年に高千穂高校を卒業後、高知県にて6年間、学生として医学の基礎を学びました。その後、熊本大学小児科に入局し、同県や宮崎県で小児科一般診療の基礎を習得したのち、大阪府や福岡県などにおいて小児血液・腫瘍診療に長く携わってまいりました。

小児がんの子どもたちと向き合う中で、長期療養を経て再び日常生活へ戻る過程を支えることの重要性を強く実感してまいりました。罹病期間の違いはあるものの、子どもたちの成長と発達を支えるという点においては、一般小児総合診療と共通する側面が多いと考えております。

また、医師として小児医療に携わる中で、いつかは故郷に恩返しをしたいという思いが次第に強くなり、このたびの決断に至りました。これまでとはやや異なる診療内容となり、不慣れな点も多く、皆様にご心配やご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、これまでに培った経験を生かし、地域の子どもたちとそのご家族が安心して受診できる医療を提供できるよう、日々誠実に努めてまいります。

さらに、地域の医療機関や関係職種の皆様と連携しながら、子どもたちの健やかな成長を支え、地域医療の一員として貢献できるように精進してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。



## ～経営改善に向けて～



西臼杵医療センターでは、外部コンサルタント（株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン【GHC】）を招いて、令和8年度に「病院経営コンサル業務委託事業」を実施します。これは、人口減少や物価高騰により病院経営が悪化する中、国が進める新たな地域医療構想や診療報酬改定の方向性を見極めながら、3つの国保病院（高千穂・日之影・五ヶ瀬）が、これからも安定して医療を提供できるよう経営改善を図る取り組みです。

4月に第1回目のキックオフ会議を開催しました。3つの国保病院がそれぞれの強みを生かし、地域に必要な医療を持続できる体制づくりが求められて

います。本事業では、外部の専門家と連携し、病院の経営状況や医療機能を総合的に分析し、将来に向けた改善策を検討します。

郡民の皆さまが安心して医療を受けられる体制を守るため、3つの国保病院の持続可能な運営に取り組んでまいります。

## ～病院見学の感想～

今回は九州医療科学大学薬学部の学生が見学に来られた際の感想をご紹介します。

### 感想①

今回は見学を受け入れてくださり、ありがとうございました。五ヶ瀬町国保病院には初めて伺ったのですが、調剤の一連の流れを体験することができ、大変貴重な経験となりました。高千穂町国保病院と日之影町国保病院の見学は2回目だったのですが、設備などを丁寧に説明してくださり、質問にもわかりやすく答えてくださったおかげで西臼杵医療センター全体に対する理解がさらに深まりました。

今回の見学を通して、地域に密着した医療の重要性を改めて実感し、将来はこのような地域医療に貢献できるような薬剤師として働きたいという気持ちがより一層強まりました。

### 感想②

今回の見学では、3つの国保病院がそれぞれ慢性期・急性期・回復期・介護療養病床といった役割を担いながら連携していることを知り、地域医療の体制について理解を深めることができました。実際に現場を見学させていただくことで、それぞれの病院が患者様の状態に応じた医療やケアを提供していることを学び、大変勉強になりました。

また、施設内の設備や職場の雰囲気についても知ることができ、医療現場への理解をより深めることができました。今回の見学を通して、自分自身も医療に関わる一員として貢献できるよう、今後も学びを深めていきたいと感じました。

このような貴重な機会をいただき、大変充実した見学となりました。改めて心より御礼申し上げます。また、質問にもご丁寧にお答えいただき、誠にありがとうございました。



### 編集後記

「広報あまのい（天の医）」が昨年夏に誕生して初めての春を迎えるとともに、令和8年度の西臼杵医療センターは運営管理局を始めとした新しい体制がスタートしました。今回はその一部をご紹介します。これからも西臼杵医療センターの「進化」を目指した取組をご紹介します。よろしくお願いいたします。

広報担当 甲斐和希



西臼杵医療センター  
NISHIUSUKI MEDICAL CENTER

〒882-1101

宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井435番地1

TEL : 0982-73-1715

FAX : 0982-73-1718

URL : <https://www.nishiusuki-hp.jp/>

